

全国 ICT 教育首長サミット



日本 ICT 教育アワード

国際ファッションセンターホール
令和4年11月17日

全国 I C T 教育首長協議会

全国 ICT 教育首長サミット

プログラム

開会行事(10:00～10:40)

- ・会長挨拶(多久市長 横尾俊彦)
- ・来賓挨拶(文部科学省、総務省、経済産業省)

第5回 日本 ICT 教育アワード表彰式

- ・審査報告(審査委員長 大久保 昇 一般財団法人日本視聴覚教育協会会長)
- ・表彰式(文部科学大臣賞) 東京都渋谷区
- (総務大臣賞) 富山県氷見市
- (経済産業大臣賞) 奈良県生駒市
- (全国ICT教育首長協議会会長賞) 埼玉県久喜市・茨城県水戸市・大阪府枚方市
- (日本視聴覚教育協会会長賞) 愛媛県四国中央市・大分県玖珠町・児島県垂水市
- 埼玉県久喜市

先進ICT教育機器展示見学(10:40～11:00)

全国ICT教育首長サミット(11:00～12:30)

- 「未来を担う子供のためにNEXT GIGAを考える」
- 先進的に ICT 教育に取り組む首長によるシンポジウム
- 文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム
- 武藤 久慶 チームリーダー
- 登壇者 アワード受賞自治体首長 協議会理事 協議会加盟自治体首長

先進ICT教育機器展示見学(12:30～13:30)

企業講演(13:30～14:30) OS企業3社による講演「ICTで実現する未来の教育」

アワード受賞自治体 ICT教育実践発表(14:30～15:15)

- ・文部科学大臣賞 東京都渋谷区 長谷部 健 区長
- ・総務大臣賞 富山県氷見市 林 正之 市長
- ・経済産業大臣賞 奈良県生駒市 小紫 雅史 市長

先進ICT教育機器展示見学(15:15～15:30)

有識者講演(15:30～17:00)

- ・東京工業大学 赤堀 侃司 名誉教授
- 「AI時代を生きる子どもたちの資質・能力」
- ・放送大学 中川 一史 教授
- 「GIGA端末を活用した主体的対話的で深い学びの実現」
- ・関西大学 黒上 晴夫 教授
- 「考え方が身に付くシンキングツール」

閉 会



日本 ICT 教育アワード

受賞自治体

文部科学大臣賞

東京都渋谷区

- ◆ 日常的・自律的な ICT 活用と教育ダッシュボードを利活用した『Well Being』を目指して

■ 基本情報

首長	長谷部 健
教育長	五十嵐 俊子
人口	229,533 人
公立学校数	小学校 18 校、中学校 8 校
児童生徒数	小学校 7282 人、中学校 1954 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末OS—windows ネットワーク—校内光ファイバー、LTE、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可 大型提示装置導入状況—すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ—プロジェクター型

■ ICT教育の特色／首長の役割

教育委員会は区長部局のICT部門と連携し、異なる発生源の教育データを集約したダッシュボードを構築した。Web 検索履歴、出欠、学校生活アンケートなどを関連付けた図表等により、課題のある子供の発見など、個への指導・支援が実現し、保護者面談やいじめ対策委員会等でも役立っている。その成果は文部科学省の有識者会議でも紹介された。

区長主導のもと、『スマートシティ推進基本方針』を策定し、区民一人一人の『Well Being』の実現を目指し、デジタル技術を活用した産官学民の共創を促進している。授業等での ICT 活用が日常的になったことを踏まえ、教育データの利活用に着手した。周辺の自治体との連携を図り、住民に対して積極的にICT教育の意義を説明した。

文部科学省の教育再生実行会議や特別区長会等で渋谷区のICT教育システム「渋谷区モデル」について情報発信を行い、「渋谷区モデル」の普及に努めた。

総務大臣賞

富山県氷見市

◆ ICTとスクールバスを活用し、ハイブリッド型交流で小規模校のハンデを克服

■ 基本情報

首長	林 正之
教育長	鎌仲 徹也
人口	44,568 人
公立学校数	小学校 9 校、中学校 4 校、義務教育学校 1 校
児童生徒数	小学校 1,657 人、中学校 960 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末OS－windows ネットワーク－普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可、ローカルブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況－すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ－タッチパネル型、モニター型

■ ICT教育の特色／首長の役割

平成 29 年度から市内全ての学級に電子黒板を、各学校に1クラス分のタブレットPCを配置し、ICTを積極的に活用した実践を積み重ねてきた。その取組は、活用事例集、リーフレット、ホームページ「まなDX」等で紹介してきた。令和2年度には、1人1台のタブレットや高速ネットワーク通信が整備され、遠隔合同授業が本格的に実施できるようになった。遠隔合同授業と並行して、スクールバスを活用した合同学習も実施するなど、ICTを利用した交流と実際に会って交流する「ハイブリッド型」の交流を推進している。これは「中1ギャップ」の解消にも効果的である。

全国ICT教育首長協議会に市長自ら出席し意見交換するなど、全国のICT教育推進に貢献している。市内のICT教育整備に積極的にリーダーシップを発揮し、予算獲得に貢献した。教育長とともに総合教育計画や整備計画を立案し、周辺の自治体との連携を図った。また住民に対して積極的にICT教育の意義を説明した。

経済産業大臣賞

奈良県生駒市

◆ 教員からのボトムアップで推進する生駒市のやわらかいICT教育改革

■ 基本情報

首長	小紫 雅史
教育長	原井 葉子
人口	118,134 人
公立学校数	小学校 12 校、中学校 8 校
児童生徒数	小学校 6,684 人、中学校 3,096 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末OS—Chrome OS ネットワーク—校内光ファイバー、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可 大型提示装置導入状況—普通教室のみ設置 大型提示装置タイプ—プロジェクター型、タッチパネル型、モニター型

■ ICT教育の特色／首長の役割

生駒市の特色はボトムアップ型でICT教育を推進していることにある。『自己肯定感を持ってほしい』『平和を考える機会をつくりたい』など現場の先生の「やりたいこと」からプロジェクトがスタート。企画段階から教育指導課のプロ人材が関わり、ICTを活用したプログラムを提案している。広島への「オンライン平和学習」では、広島電鉄の被爆電車へオンライン乗車、広島市立小学校との合同学習などを行った。

ビジネス界でも活躍する人材を採用し、学校現場にはないICT活用のノウハウや人的ネットワークを活用することで、多くの「学校と社会、今と未来をつなぐ授業」が実現した。私立学校でICT教育の先進事例を作り続けていた教員を教育指導課に社会人として採用するなど、ICTを活用しながら「生きる力」を育むための人材確保を積極的に行っている。ICT教育フォーラムなどで首長自らICT教育の意義を説明するなど、教員からのボトムアップがしやすい体制づくりを行ってきた。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

一般財団法人日本視聴覚教育協会会長

埼玉県久喜市

- ◆ 次代の世界で活躍する「未来を拓く力」を育む『久喜市版未来の教室』の実現

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

茨城県水戸市

- ◆ 教員研修の充実と市が一丸となって GIGA スクール構想に取り組むための事業の実施

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

大阪府枚方市

- ◆ 学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく ～自立、協働、創造に向けた主体的な学びを支え、可能性を最大限に伸ばす～

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

愛媛県四国中央市

- ◆ GIGA しこちゅ～ つながる・ひろがる新しい学び、未来への挑戦！

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

大分県玖珠町

- ◆ 地域の未来を創る人材育成～玖珠町ジュニア ICT リーダー～

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

鹿児島県垂水市

- ◆ 誰ひとり取り残さない「垂水らしい GIGA スクール構想」から「GIGA スクールのまち 垂水」の具現化